A 2. シノドス的教会の進むべき道、霊における対話（次ページ図参照）

参加者の間のダイナミズムは、三つの基本的なステップで表現されます。

37. 第 1 ステップ＝**各自が発言することに専念し**、それは準備の時間に祈りの中で振り返った自分の体験から始めます。他の参加者は、一人ひとりが貴重な貢献をしているという意識をもって、議論や討論をせずに耳を傾けます。

38. 第 2 ステップ＝各自が自分の中に、他者と神のためにスペースを開くよう招かれます。再度、各自が発言の場に立ちますが、聞いたことに反応したり反論したり、自分の立場を再確認するためではなく、耳を傾けたことからもっとも深く感動したこと、もっとも大きな課題を感じたことを表現するためです。**姉妹や兄弟に耳を傾けることから生まれる内なる足跡は、聖霊がそれとともに自らの声を響かせる言語なのです。**

39. 第 3 ステップ＝再び祈りの雰囲気の中で、聖霊の導きのもとに、**浮かび上がった重要なポイントを特定し、共同作業の成果に関する合意を形づくることです。**

霊における対話

シノドス的教会における識別のダイナミズム

個人の準備

おん父に自らをゆだねることによって、主イエスとともに祈る中で回心し、聖霊に耳を傾け、各自、自らが識別するよう呼ばれている問いに対して自分の答えを準備する。

沈黙、祈り、
みことばに耳を傾け

「発言し、耳を傾け」

各自、順番に、自分の体験と祈りについて語り、他者の発言に注意深く耳を傾ける。

沈黙と
祈り

「他者と神のために スペースを開いて」

他者が語ったことから、各自、もっとも響いたこと、また自分の中でもっとも抵抗を感じたことを分かち合い、その際、聖霊の促しに自らをゆだねる。「聞いていて、いつわたしの心は燃えていたか」

沈黙と
祈り

「ともに形づくって」

わたしたちはともに、霊における対話の成果を識別し、まとめるために、先に現れたことを基礎として対話する。つまり、直感と意見の一致を評価し、不協和音・障害・新たな問いを特定し、預言者的声が現れてくるのに任せる。重要なことは、その作業の成果物によって自分の声が反映されている、とあらゆる人が感じられること。「聖霊は、わたしたちをともに、どの段階へと招いているか」

感謝のための 終わりの祈り